

降雹・大雨に対する営農技術対策について

平成23年6月12日
北海道農政部

北海道は、6月10日の午後から11日にかけて上空に寒気を伴う気圧の谷が通過し、大気の状態が不安定となり、オホーツク管内を中心として、降雹とそれに伴う大雨が降りました。

この影響で、小麦、てん菜、ばれいしょ、たまねぎなどの農作物に被害が発生しています。被害を受けたほ場においては、次の技術対策を参考に状況に応じた適切な対応に努めてください。

第1 共通事項

- 1 降雹などによる影響を受けた作物については、損傷の部位や被害程度を観察するとともに、その後の生育回復見込みを慎重に判断する。
- 2 地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を実施する。
- 3 表土が流れたり土砂が堆積したほ場、土壌表面が固結しているほ場では、作業機がほ場での走行が可能になり次第、中耕を入れ通気性の向上と地温の上昇に努める。
- 4 降雹により茎葉が損傷すると病害虫の発生が懸念される。病害虫の発生に注意し適切な防除に努める。農薬を使用する際には、農薬使用基準を遵守するとともに、隣接する作物への飛散防止に注意する。
- 5 強い降雹により作物の損傷が著しい場合は、作物の回復状況を勘案し、代替作物を検討する。代替作物を播種する場合は、前作物の残存する肥料成分を勘案して施肥を行うとともに、ポジティブリスト制度を遵守するため、すでに施用した農薬に留意する。

第2 畑作物

- 1 小麦
茎葉や穂の損傷が見られるが、当面、生育の推移を見守る。今後、うどんこ病や赤かび病の発生に注意し、適正な防除を行う。
回復を目的とした追肥の効果は低く、蛋白含有率を高めるので行わない。
- 2 てん菜
生育の回復を図るため、農作業機の走行が可能になり次第、中耕を行い土壌の通気性を良くする。今後、除草剤散布を計画しているほ場は、てん菜の生育が回復してから実施する。また、損傷を受けた茎葉は、低温条件下で斑点細菌病の発生が懸念されるので、適正な防除を行う。
回復を目的とした追肥効果は低いので行わない。

3 ばれいしょ

強い降雨により培土が崩されたり表土が移動したほ場では、早めに再培土を実施する。

4 豆類

茎葉の損傷により生育ムラが予測される。中耕により土壌の通気性向上と地温の上昇に努め、生育の回復を図る。

第3 野菜類

1 たまねぎ

(1) 生長点(地際部の葉が分化している部分)が大きな損傷を受けていないかを、慎重に観察する。

(2) 茎葉の損傷により軟腐病や細菌性病害、タマネギバエ等が発生し易くなるのでそれぞれ登録のある薬剤等で防除を行う。

なお、オキシリニック酸水和剤の使用に当っては、作用性の異なる他剤とのローテーション防除を行い、連続散布を避ける。

2 ながいも

(1) つるが支柱ネットから脱落している場合は、再度つる上げを行う。

(2) 溝の陥没が見られる場合は、支柱が倒れないように刺しなおし、陥没した部分は土を入れる。

3 かぼちゃ

(1) 茎葉の損傷をうけた部位より疫病やべと病の発生が懸念されるので、薬剤防除を実施する。

第4 飼料作物

1 サイレージ用とうもろこし

雹の打撲で本葉に傷ができた状況での除草剤散布は、薬害発生の要因となるので回復を待ち散布の是非を判断する。